

コラム 国立釜慶大学地質環境研究所及び

インドネシア公共事業省道路工学研究所との連携協定に基づく活動

寒地土木研究所では、アジア地域の機関と土木技術に関する研究交流や技術普及を積極的に進めています。一例をあげますと、釜慶大学地質環境研究所、インドネシア公共事業省道路工学研究所等と連携協定を締結し研究協力を進めています。平成 27 年度には、上記の連携協定に基づくシンポジウム等を開催しましたので、概要をご紹介します。

平成 27 年 10 月 20 日に韓国の釜山広域市において、「2015 年釜慶大学地質環境研究所と寒地土木研究所による国際共同シンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムは、2 年毎に日韓交互に開催しています。今年度は、韓国から釜慶大学地質環境研究所のほか、釜山大学から約 40 名が参加し、日本から寒地土木研究所のほか、農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所、愛媛大学、(株)フジタ等から 14 名が参加しました(写真-1)。

本シンポジウムでは、「地盤環境の調査および評価手法に関する研究」をテーマとし、物理探査、地下水調査および斜面安定等に関する研究成果の発表を通して活発な議論を行いました。韓国と日本とでは地下環境に共通した課題も多く、評価技術に関する問題意識を共有することができました。今後とも、産学各々の特性を活かした連携を図りつつ研究協力を進めていきます。

平成 28 年 3 月 1 日にインドネシア共和国のジャカルタ市において、「泥炭地盤におけるインドネシア公共事業省道路工学研究所と寒地土木研究所のワークショップ」を開催しました(写真-2)。

本合同会議では、主に下記について議論しました。(1)泥炭地盤における両研究所の既往研究成果の発表と意見交換。(2)今後の研究連携計画。とりわけ、(2)については、①熱帯性泥炭の沈下予測手法の確立、②経済的なセメント改良技術の設計・施工手法の確立を平成 31 年度までに達成することで合意しました。寒地土木研究所は、北海道の泥炭に関する数多くの知見を有していることから、引き続き、熱帯性泥炭対策の確立を通して国際貢献を図っていきます。



写真-1 参加者による集合写真



写真-2 ワークショップの開催状況